

石垣島の藻場再生プロジェクトが 農水省の新制度「農山漁村振興への貢献活動に係る取組証明書」を取得

沖縄セルラー電話株式会社（本社：沖縄県那覇市、以下「沖縄セルラー」）は、石垣島野底エリアで実施している「石垣島野底ウミショウブ防衛プロジェクト」が、農林水産省が新たに設けた制度「農山漁村振興への貢献活動に係る取組証明書」を取得したことをお知らせします。



写真説明：農林水産省にて執り行われた授与式の様子と再生プロジェクトを進める石垣の藻場



農林水産省の新制度について

本制度は、農林水産省が今年度から開始した新制度で、企業等が農山漁村の課題解決に向けて行う取り組みについて、国がその貢献を証明するものです。企業による農山漁村への参画や継続的な取り組みを後押しすることを目的としています。

農林水産省取組証明

「石垣島野底ウミショウブ防衛プロジェクト」の取り組み

沖縄セルラーが参画する本プロジェクトは、アオウミガメの採食等により減少が進んでいる、絶滅危惧種の海草「ウミショウブ」の藻場再生に取り組むものです。

具体的には、藻場を守るために約1ヘクタールの保護柵を設置したほか、海草畜養水槽（6基）を設けてウミショウブの育成を行っています。また、ドローンや水中カメラなどを活用し、藻場の状況を定期的に確認・記録するモニタリングを実施してきました。あわせて、地元小学校での環境教育や関連イベントを5回（2024年3回、2025年2回）行うなど、地域と連携した活動も進めています。

これらの取り組みは、「地域の自然資源の維持・向上」に資する活動であり、かつ現地での活動や人的・技術的支援といった「直接的貢献」に該当する取り組みとして評価され、取組証明書の認定を受けました。

沖縄セルラーは、世界に誇る豊かな自然環境をもつ沖縄を、次の世代に引き継ぐことができるよう引き続き環境保護活動の取り組みを続けていきます。

なお、本プロジェクトには、沖縄セルラーのほか、株式会社琉球銀行、株式会社サンエー、東京海上アセットマネジメント株式会社が参画しています。

以上